

Utsunomiya Area [宇都宮エリア]

中学生が大谷石で表札作り体験

保護者や地域の人たちも参加

城山中学校

大谷町の城山中(初谷憲一校長)の1年生が7日、総合的な学習の時間にふるさと学習「大谷石加工体験学習」を行った。

地域の特産品である大谷石の加工を体験することで、地域について知り誇りを持ってもらうことや、地域の一員であるという自覚を高めることを目的に、毎年行っている。

同学習には、大谷アカデミー事務局の飯村淳さんが協力し、同アカデミーの実技長で大谷石彫刻家の渡邊哲夫さんが講師を務めた。体験前の11月19日には、宇都宮美術館の橋本優子さんの講話「フランク・ロイド・ライトと大谷石の魅力」も開かれた。

この日の加工体験は、ゴーグルを装着した生徒たちが、ハンマーとのみを使い、浮き彫りまたは彫り込みの技法で、縦15センチ、横30センチ、厚さ5センチの大谷石を用いた表札作り



指導を受けながら表札を彫る生徒

に取り組んだ。また、同学習は魅力ある学校づくり地域協議会主催の「親学講座」も兼ねていて、興味関心のある保護者や地域の人たちも参加した。

伊藤陽希君(13)は「普段あまり触れる

機会がなかった大谷石について詳しく知ることができて良い体験になった」、古澤菜穂さん(13)は「大変だったけれど楽しかった。家族に見せて、家に飾りたい」と話していた。

